

ウメ（果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 （日 数）	使 用 回 数	か い よ う 病	灰 色 か び 病	黒 星 病	灰 星 病	環 紋 葉 枯 病	す す 斑 病	う ど ん こ 病	縮 葉 病	白 紋 羽 病	枝 枯 病	ゆ 合 促 進
I Cボルドー66DFL	無機	M1		*a	-	◎										
Zボルドー水	無機	M1		*a	-	◎										
イオウFL	無機	M2		-	-			◎								
クムラス顆水	無機	M2		-	-			◎								
コサイド3000DF	無機	M1		*f	-	◎										
石灰硫黄合剤	無機	M2		*d	-							◎				
インダーFL	DM I	3		1	2			◎			◎					
オーシャイン水	DM I	3		1	3		◎	◎	◎		◎					
オーシャインFL	DM I	3		1	3			◎	◎		◎					
オンリーワンFL	DM I	3		1	3			◎	◎		◎					
スコア顆水	DM I	3		1	3			◎			◎					
トリフミン水	DM I	3		14	3			◎								
マネージDF	DM I	3		45	3			◎								
アミスター10FL	Q o I	11		1	3			◎			◎					
ストロビーDF	Q o I	11		7	3		◎	◎		◎	◎	◎				
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		1	2		◎	◎	◎		◎					
アグレプト水	抗生物質	25		90	2	◎										
カスミン液	抗生物質	24		30	2	◎										
バリダシン液5	抗生物質	U18		7	4	◎										
マイコシールド水	抗生物質	41		21	4	◎										
ロブラール水	ジカボキサイド	2		45	2		◎			◎						
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		7	1			◎			◎					
チオノックFL	有機硫黄	M3		21	2			◎								
トレノックスFL	有機硫黄	M3		21	2			◎								
ペンコゼブFL	有機硫黄	M3		21	3	◎		◎			◎					
パッチレート塗	有機銅	M1		*e	3											◎
ケンジャFL	他	7		1	3			◎								

ウ
メ

ウメ（果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 （日 数）	使 用 回 数	か い よ う 病	灰 色 か び 病	黒 星 病	灰 星 病	環 紋 葉 枯 病	す す 斑 病	う ど ん こ 病	縮 葉 病	白 紋 羽 病	枝 枯 病	ゆ 合 促 進
デランFL	他	M9	劇	14	2			◎			◎					
フジワン粒	他	6		60	1									◎		
フロンサイドSC	他	29		*c	1		◎	◎								
				*b	1								◎			
ベルコートFL	他	M7		30	3		◎	◎			◎					
ベルコート水	他	M7		30	3		◎	◎	◎	◎	◎				◎	
スイッチ顆水	A P・他	9・ 12		45	2		◎	◎								
ナティーボFL	DM I・Q o I	3・ 11		1	2			◎			◎					
オルフィンプラスFL	DM I・アミド	3・7		1	3			◎	◎							
ナリアWDG	Q o I・アミド	11・ 7		7	2			◎		◎	◎					
アグリマイシン-100 水	抗生物質・ 抗生物質	41・ 25		90	2	◎										
アタッキン水	抗生物質・ベン ゾイミダゾール	25・ 1		90	2	◎		◎								
ゲッター水	ベンゾイミダゾー ル・ベンゾイミダ ゾール	10・ 1		21	3		◎	◎								
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・ 19		30	3		◎	◎			◎					

*a: 葉芽発芽前まで *b: 収穫後～開花前まで(但し収穫60日前まで)

*c: 発芽期まで(但し収穫60日前まで) *d: 発芽前 *e: 剪定時及び病患部削り取り直後

*f: 硬核期まで

ウ

メ

ウメ(果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ ン	カ イ ガ ラ ム シ ン	カ マ キ ム シ ン	シ ン ク イ ム シ ン	ノ コ メ ト ガ リ キ リ ガ	ケ ム シ バ	ス カ シ バ	コ ス カ シ バ	ケ シ キ ス イ	キ ク イ ム シ	カ ミ キ リ ム シ	ハ ダ ニ
除虫菊乳3	ビレスロイト*	3A		7	5	◎											
バイオセーブ	天敵生物			*d	-												ク
スプレーオイル	天然物由来			*a	-	◎											
トモノールS	天然物由来			*a	-	◎											
アブロードFL	I GR	16		7	2	幼											
マトリックFL	I GR	18		3	3					モ							
オリオン水40	カーバメート	1A	劇	7	3	◎			◎	◎							ク
カネマイトFL	殺ダニ	20B		7	1												◎
ニッソラン水	殺ダニ	10A		7	2												◎
サムコルFL10	ジアミト*	28		14	3			◎	◎	◎		◎					
フェニクックスFL	ジアミト*	28		1	2					◎		◎					
				*c	1							◎					
ディアナWDG	スピノシン	5		1	2			◎		◎							
アクタラ顆溶	ネオニコチノイド*	4A		7	2	◎		◎									ク
アドマイヤー顆水	ネオニコチノイド*	4A	劇	*g	2	◎											
ダントツ溶	ネオニコチノイド*	4A		1	3	◎		◎		◎				◎			ク
バリアード顆水	ネオニコチノイド*	4A	劇	1	2	◎			◎					ア			
モスビラン顆溶	ネオニコチノイド*	4A	劇	1	3	◎	◎		◎					◎			ク
アグロスリン水	ビレスロイト*	3A	劇	7	3	◎											
アディオン乳	ビレスロイト*	3A		1	2	◎											
スカウトFL	ビレスロイト*	3A	劇	1	3	◎		◎									
テルスターFL	ビレスロイト*	3A	劇	1	2			◎									
フォース粒	ビレスロイト*	3A	劇	3	1									ア			
ベニカキリムシエアゾール ロビンフッド	ビレスロイト*	3A		1	5							◎	◎				◎
マブリックEW	ビレスロイト*	3A	劇	21	2	◎				オ							
ロディー水	ビレスロイト*	3A	劇	7	3	◎			◎	◎							
ガットキラー乳	有機リン	1B		*b	2							◎		◎			
スプラサイド水	有機リン	1B	劇	14	2		◎										ク
スミチオン乳	有機リン	1B		14	2	◎				メ							ク
				*f													
マラソン乳	有機リン	1B		7	5	◎	◎		◎								
アクセルFL	他	22B		1	3					◎				◎			ク
チェス顆水	他	9B		21	2	◎											
キックオフ顆水	ジアミト*・ネオ ニコチノイド*	28・ 4A		14	3			◎		◎							

*a:発芽前 *b:休眠期(落葉後～萌芽期) *c:開花期まで *d:幼虫発生期
 *e:成虫発生期(但し収穫7日前まで) *f:成虫発生期(但し収穫14日前まで)
 *g:収穫21日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)
 ア:アカマダラケシキスイ オ:オビカレハ(別名ウメケムシ) ク:クビアカツヤカミキリ
 メ:アメリカシロヒトリ モ:モンクロシヤチホコ 幼:幼虫

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
かいよう病		1. 病枝は切り取り処分する。 2. 防風林、防風垣を設ける。	開花期から5月下旬までは多発しやすい。 風雨直後の防除を重点的に行う。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △希釈倍数等使用方法を誤ると、葉の退緑斑、果皮の退緑化等被害を生じるので注意。
	開花期以降 ～5月下旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100(水)● 1000倍 アタッキン水和剤● 800～1000倍 Zボルドー(水) 500倍 マイコシールド(水)●△ 1500倍	
灰色かび病		・ 地上に落下した発病果は集めて処分する。	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	2月下旬 ～3月下旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1000～1500倍 ポリベリン水和剤 1000倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	
黒星病	発芽前	・ 病枝は切り取り処分する。	春先から温暖で雨の多い年に発生しやすい。 小向、豊後、白加賀、玉英などはかかりやすく、小梅品種、梅郷、南高などは比較的にかかりにくい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *小粒核果類での登録
	4～5月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 オーツサイド水和剤80* 800～1000倍 スコア顆粒水和剤● 2000～3000倍 ストロビードライフロアブル● 2000～3000倍 ゲッター水和剤● 1000倍 ベルクート水和剤 2000倍 ポリベリン水和剤 1000倍 マネージDF● 4000倍	
環紋葉枯病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビードライフロアブル 2000倍 トップジンM水和剤* 1000～1500倍 ベルクート水和剤 2000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍	多雨年に多発する。 *小粒核果類での登録
すす斑病	4月上旬 ～5月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビードライフロアブル 2000～3000倍 ベルクート水和剤 2000倍	

ウメ (果樹類、落葉果樹、小粒核果類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	4月上旬～5月中旬 (落花直後の散布が効果的である)	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> アディオン乳剤 3000倍 アドマイヤー顆粒水和剤*a 10000倍 ウララDF* 2000～4000倍 オリオン水和剤40 1000倍 スミチオン乳剤 1000～2000倍 ダイアジノン水和剤34* 1000～1500倍 バリアード顆粒水和剤 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～6000倍 	モモアカアブラムシ、スモモオマルアブラムシは葉を縮れさせる。 オカボノアブラムシは新梢に、モモコフキアブラムシは葉裏に寄生してすす病を誘発する。 *a: 露地栽培については発芽期から開花期を除く *小粒核果類での登録
カイガラムシ類	12月(休眠期) 5月中旬～6月中旬 ・9月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を散布する。 <ul style="list-style-type: none"> スプレーオイル#1 30～50倍 幼虫発生期に次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> マラソン乳剤 1000～2000倍 アプロードフロアブル#2 1000倍 	#1スプレーオイルは芽の活動する以前(12月)に散布する。 #2幼虫での登録 タマカタカイガラムシは越冬幼虫を削り取るか、5月中下旬に発生する若齢時に薬剤防除する。
オビカレハ (ウメケムシ)	1月 (剪定時)	1. 卵は小枝に指輪状にうみつけられるので剪定の時に除く。 2. 分散前の幼虫を巣ごと処分する。	薬剤防除は幼虫の群生している初期に行う。
	4月上旬 (幼虫初期) 5月上旬 (分散期)	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を散布する。 <ul style="list-style-type: none"> マブリックEW 4000倍 	
アメリカシロヒトリ		1. 若齢幼虫期には、巣網をつくって集団でいるので枝ごと処分する。 2. 幼虫発生期に次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> スミチオン乳剤 1000倍 ダイアジノン水和剤34* 1000～1500倍 	幼虫は5月下旬～6月下旬と8月中旬～9月中旬の年2回発生する。 巣網を離れて活動を始めると薬剤も効きにくくなる。低木の根元などで蛹になる。 *小粒核果類での登録
ハダニ類		<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カネマイトフロアブル 1000倍 	
その他の病害虫		ウメスカシクロバ	

ウ
メ